

地域概況・環境現況調査結果

I 地域の概況

I.1 位置・地勢

本市は、兵庫県の南東に位置し、加古川の支流、美囊川が中央部を東西に流れ、美囊川周辺には平野部が広がり、それを囲むようになだらかな丘陵地、台地で構成された緑豊かな自然に恵まれています。丘陵地には、ゴルフ場が多く、平野部には農村地帯が広がり、酒米山田錦の産地として有名です。また、歴史的な資源に恵まれ、古くから金物のまちとして栄え、湯の山街道沿い等に歴史的なまちなみが残っています。

市域の面積は、176.51km²と東播磨地域の中では2番目に広く、神戸市、加古川市、小野市、加東市、三田市、稲美町の5市1町と接しています。1954（昭和29）年の市制施行以後、1964（昭和39）年から阪神間のベッドタウンとして神戸電鉄沿いを中心に、緑が丘や自由が丘、青山等で、大規模な住宅開発が行われて急激に人口が増加し、仕事や日常生活において、神戸市、小野市、三田市等の近隣市町との関係が深くなっています。

交通では、中国自動車道及び山陽自動車道、舞鶴若狭自動車道など、高速道路網が形成されており、ゴルフ場をはじめ、三木山森林公園、三木ホースランドパーク、山田錦の館、吉川温泉よかたん等の観光・レクリエーション施設には、多くの人々が訪れます。また、広域防災拠点やスポーツ振興拠点の役割を担う兵庫県立三木総合防災公園、新産業創造拠点としてひょうご情報公園都市が整備されるなど、住みよいまちづくりや地域活力の強化に向けて発展を続けています。

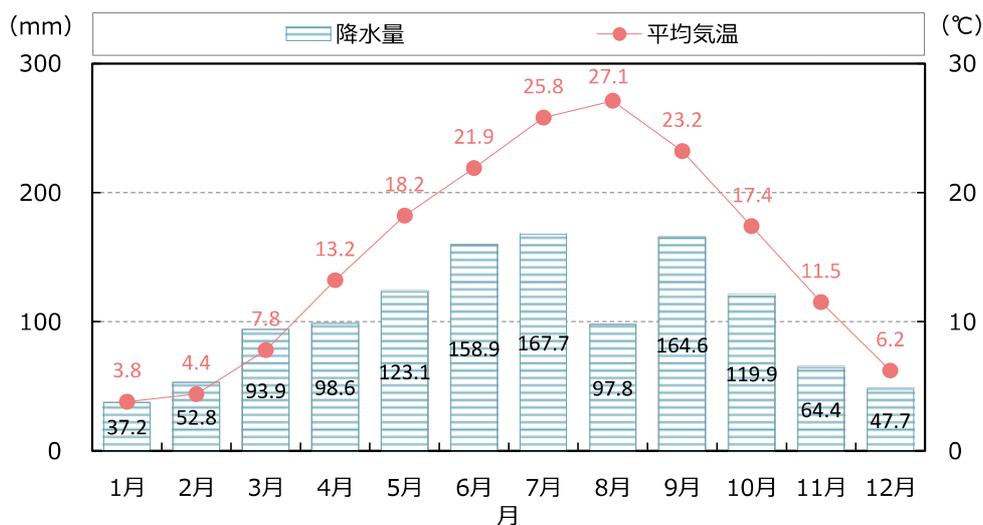


本市の位置図

1.2 気象

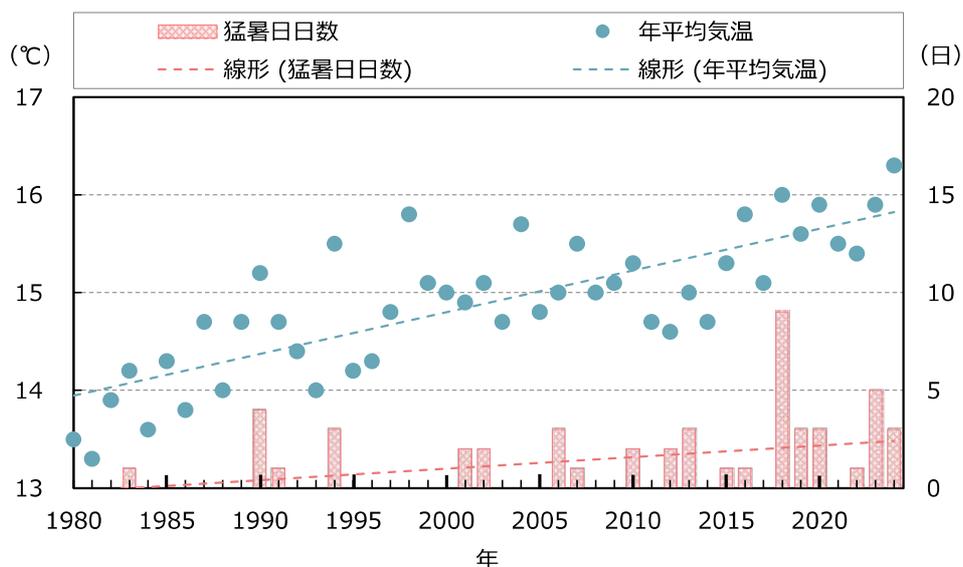
市内の三木観測所における年平均気温及び年間降水量の平年値（1991（平成3）年から2020（令和2）年の30年間の平均値）は、それぞれ15.1℃、1,220.7mmとなっています。月平均気温の平年値は8月が27.1℃と最も高く、月間降水量の平年値は7月が167.7mmと最も多くなっています。

また、1980年以降の年平均気温の長期変化傾向を見ると、上昇傾向で推移しています。それに伴って、猛暑日（日最高気温が35℃以上の日）日数についても、増加傾向で推移しています。



出典：気象庁（三木気象観測所）

月平均気温及び月間降水量の平年値



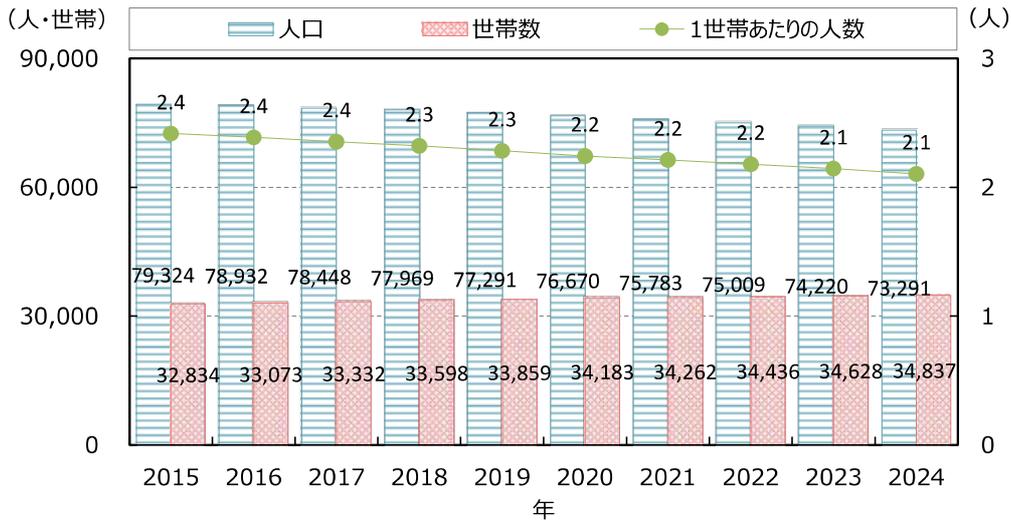
出典：気象庁（三木気象観測所）

年平均気温及び猛暑日日数の推移

1.3 人口・世帯数

本市の人口及び世帯数は、2024（令和6）年でそれぞれ73,291人、34,837世帯となっており、人口は減少傾向、世帯数は増加傾向で推移しています。1世帯あたりの人数は、同年で2.1人となっており、減少傾向で推移していることから、核家族化や単身世帯化が進行しています。

また、年齢階級別人口の構成比は、15歳未満及び15～64歳が減少傾向、65歳以上が増加傾向で推移していることから、少子高齢化も進行しています。



出典：三木市統計書

人口、世帯数及び1世帯あたりの人数の推移

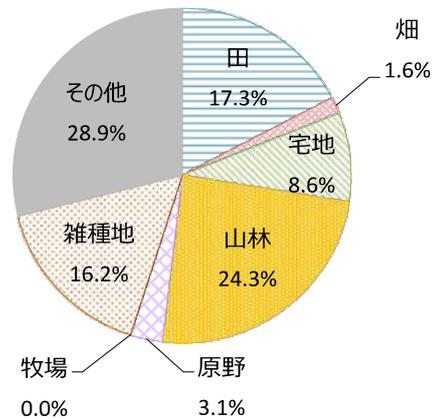


出典：三木市の人口や世帯の推移に関する情報

年齢階級別人口の構成比の推移

1.4 土地利用

本市の地目別面積の構成比は、2024（令和6）年1月1日現在で、その他を除けば、山林が24.3%で最も高く、次いで田が17.3%、雑種地が16.2%、宅地が8.6%などとなっています。

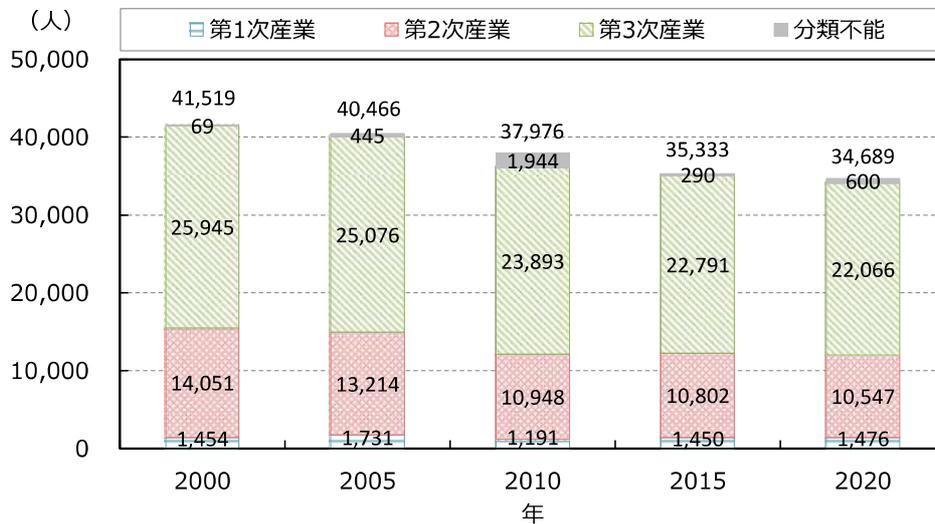


出典：三木市統計書
地目別面積の構成比

1.5 産業

(1) 産業別就業者数

本市の就業者数は、2020（令和2）年で34,689人となっており、減少傾向で推移しています。その内訳を見ると、第3次産業が22,066人で最も多く、次いで第2次産業が10,547人、第1次産業が1,476人などとなっています。

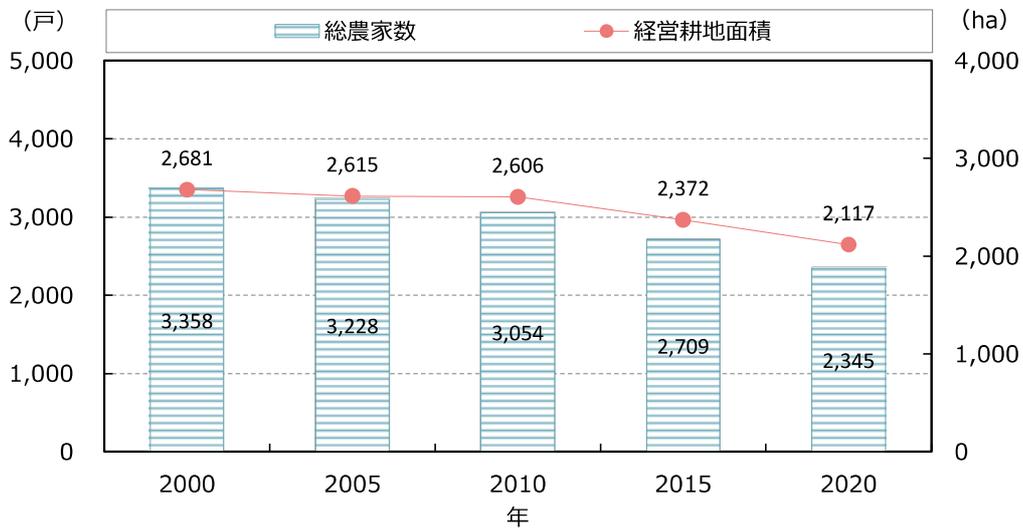


出典：国勢調査

産業別就業者数の推移

(2) 農業

本市の総農家数及び経営耕地面積は、2020（令和 2）年でそれぞれ 2,345 戸、2,117ha となっており、いずれも減少傾向で推移しています。

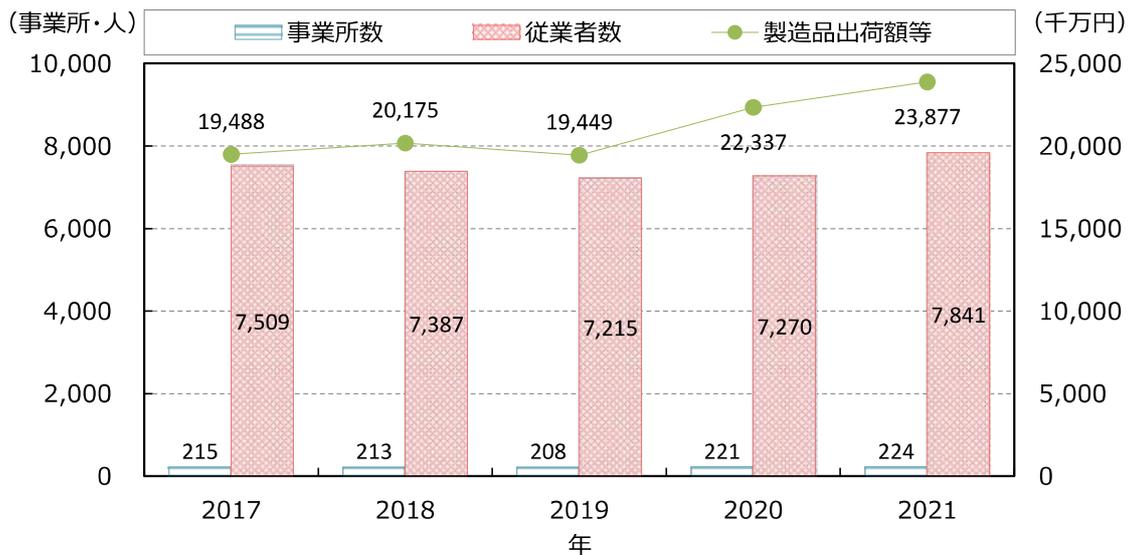


出典：農林業センサス

総農家数及び経営耕地面積の推移

(3) 工業

本市の工業の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等は、2021（令和 3）年でそれぞれ 224 事業所、7,841 人、23,877 千万円となっており、いずれも 2019（令和 元）年まで多少の増減はあるものの減少傾向で推移した後、増加傾向に転じています。



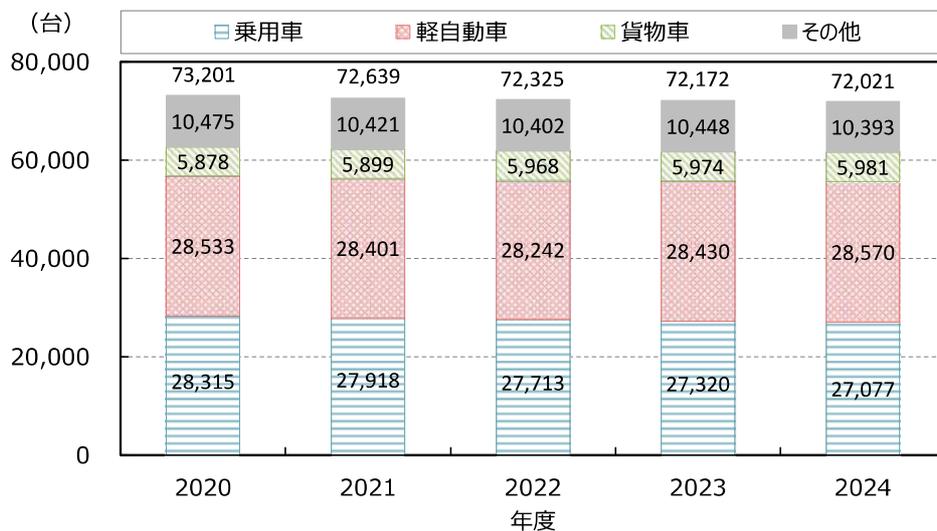
出典：工業統計調査（～2019 年）、経済センサス-活動調査（2020 年）、
兵庫県統計書（2021 年）

工業の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の推移

1.6 交通

(1) 自動車

本市の自動車保有台数は、2024（令和6）年度で72,021台となっており、減少傾向で推移しています。その内訳を見ると、軽自動車が28,570台で最も多く、次いで乗用車が27,077台などとなっています。

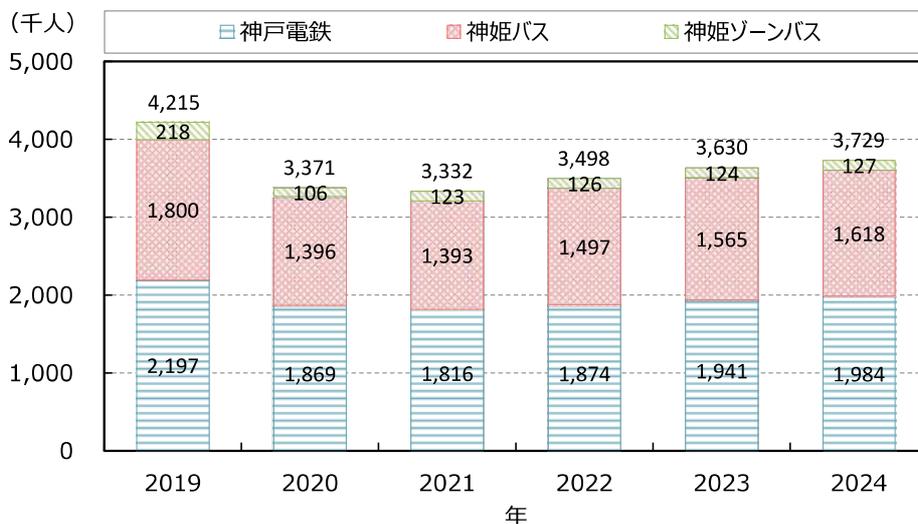


出典：三木市統計書

自動車保有台数の推移

(2) 公共交通

本市の公共交通利用者数は、2024（令和6）年で3,729千人となっています。新型コロナウイルスの影響もあり、2020（令和2）年及び2021（令和3）年に減少した後、緩やかな回復傾向で推移しています。その内訳を見ると、神戸電鉄が1,984千人で最も多く、次いで神姫バスが1,618千人などとなっています。



出典：三木市統計書

公共交通利用者数の推移

2 環境の現状・課題

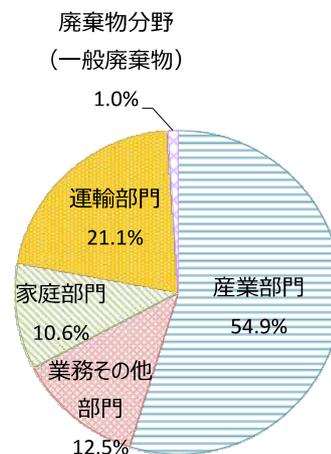
1.1 脱炭素

(1) 現状

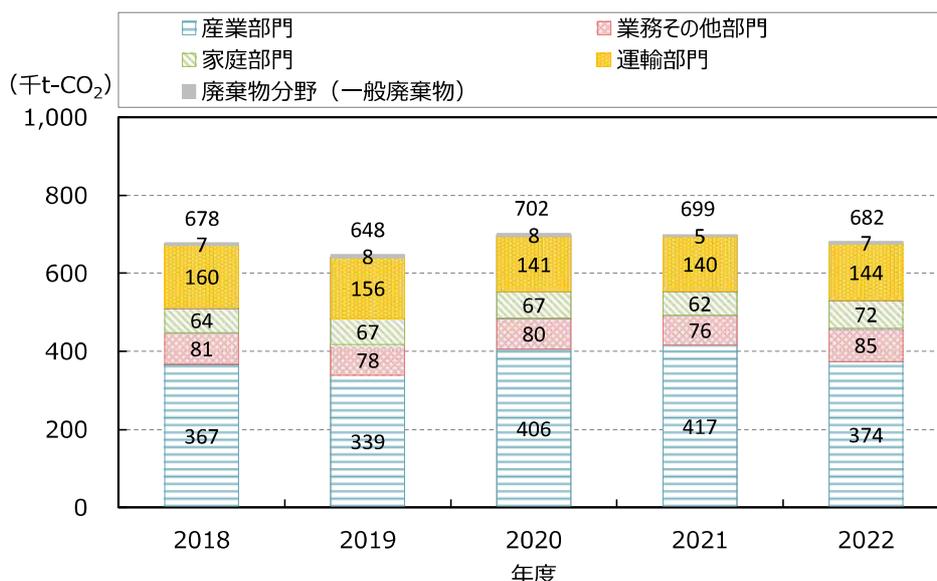
① 温室効果ガス排出量

市内の温室効果ガス（CO₂）排出量は、2022（令和4）年度で682千t-CO₂となっています。概ね横ばいで推移しており、2018（平成30）年度と比較すると0.5%増となっています。部門・分野別に見ると、産業部門が1.8%増、業務その他部門が5.2%増、家庭部門が13.2%増、廃棄物分野（一般廃棄物）が3.5%増となっている一方で、運輸部門が10.1%減となっています。

また、同年度の部門・分野別構成比を見ると、産業部門が54.9%で最も高く、次いで運輸部門が21.1%、業務その他部門が12.5%、家庭部門が10.6%などとなっています。



出典：環境省「自治体排出量カルテ」
温室効果ガス排出量の部門・分野別構成比（2022年度）



出典：環境省「自治体排出量カルテ」

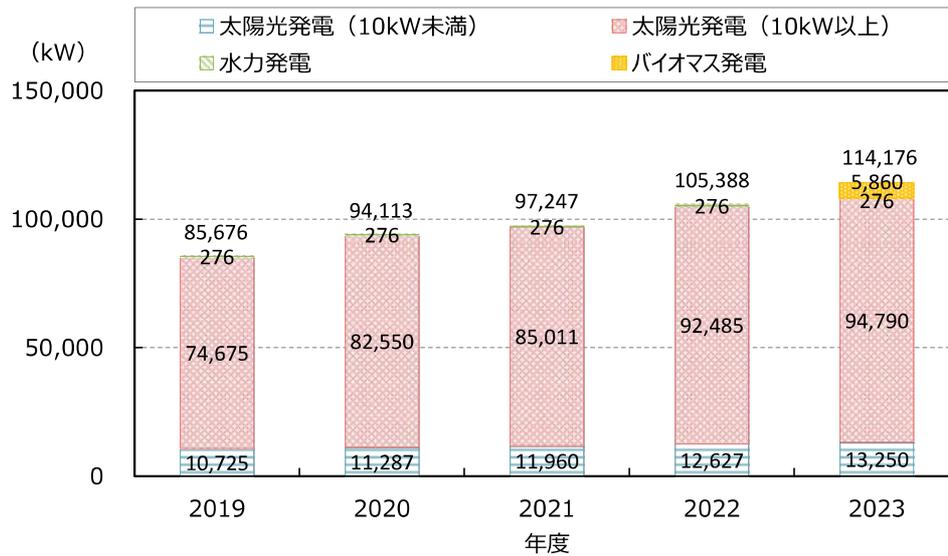
温室効果ガス排出量の推移

温室効果ガス排出量の部門・分野の概要

部門・分野	概要
産業部門	農業・林業・製造業・建設業の工場や事業所内（建設現場や農地も含む）における生産活動等のエネルギー消費に伴う排出
業務その他部門	小売業・医療・教育・情報通信・飲食・宿泊等のサービス業や行政機関の店舗や庁舎等における事業活動等のエネルギー消費に伴う排出
家庭部門	家庭における電力やガス等のエネルギー消費に伴う排出
運輸部門	自家用車・社用車・バスやタクシー等の旅客自動車、トラック等の貨物自動車、鉄道のエネルギー消費に伴う排出
廃棄物分野（一般廃棄物）	家庭や事業所が排出する一般廃棄物の焼却処分に伴う排出

②再生可能エネルギー

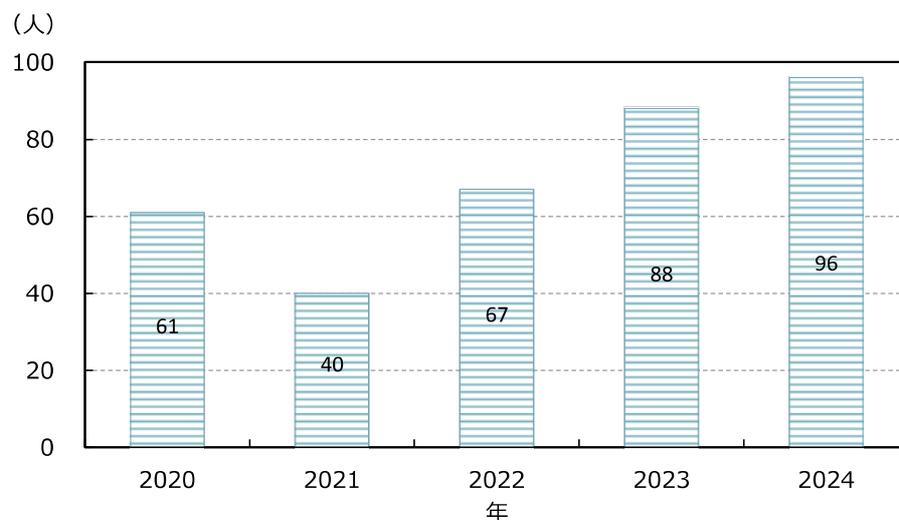
市内のFIT・FIP制度による再生可能エネルギー設備の累計導入容量は、2023（令和5）年度で114,176kWとなっています。その内訳を見ると、太陽光発電（10kW以上）が94,790kWで最も多く、次いで太陽光発電（10kW未満）が13,250kW、バイオマス発電が5,860kWなどとなっています。



出典：再生可能エネルギー電子申請サイト
再生可能エネルギー設備の累計導入容量の推移

③熱中症患者数

市内の熱中症患者数は、2024（令和6）年度で96人となっており、多少の増減はあるものの増加傾向で推移しています。



出典：三木市資料

熱中症患者数の推移

(2) 課題

- 市内の温室効果ガス排出量（CO₂）は近年概ね横ばいで推移しているため、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた情報発信や支援策の検討を行うことで、地域全体の機運を高めながら、省エネルギー対策のさらなる推進や再生可能エネルギーの導入拡大を図っていく必要があります。
- 「デコ活（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）」の普及啓発等によって、市民・事業者の脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルへの転換を図っていく必要があります。
- 本市は運輸部門からの温室効果ガス排出量が多くなっていることから、次世代自動車の導入促進や、公共交通機関の利便性向上・利用促進を図っていく必要があります。
- 市内に導入されている再生可能エネルギーは太陽光発電が中心となっていますが、エネルギー供給の多様性の観点から、多様な再生可能エネルギーの導入可能性について、民間事業者と連携し、調査・研究を行っていく必要があります。
- 太陽光発電のさらなる導入拡大を図っていくため、住宅・建築物をはじめとする建物の屋根に加えて、駐車場の屋根や農地等を活用するなど、新たな適地への導入を検討していく必要があります。
- 市内に導入されている再生可能エネルギーは大部分が FIT・FIP 制度による売電事業であり、地域社会が恩恵を受けられていない状況にあります。そのため、今後は同制度に頼らない地産地消型の再生可能エネルギーの導入拡大を図ることで、域外へのエネルギー代金の流出をできる限り抑制するとともに、災害時においても生活や事業活動等に必要なエネルギーが自給できるなど、地域レジリエンス強化につなげていく必要があります。
- 年平均気温の上昇、猛暑日日数や熱中症患者数の増加など、市内でも気候変動影響が顕在化していることから、それによる被害を回避・軽減する適応策を検討していく必要があります。

1.2 自然共生

(1) 現状

①希少野生動植物

兵庫県では、絶滅の危機にある希少野生動植物等を保全し、生物多様性を確保するため、1995（平成 7）年に「兵庫の貴重な自然-兵庫県版レッドデータブック-」を作成しています。その後、蓄積された新たな生物情報を基に、2014（平成 26）年に貝類・その他無脊椎動物、2017（平成 29）年に哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類、2020（令和 2）年に植物・植物群落、2022（令和 4）年に昆虫類、2025（令和 7）年に鳥類について改訂された新たなレッドリストが公表されています。

同資料の県内分布記録に本市が含まれている希少野生動物は 152 種、希少野生植物は 112 種となっています。

希少野生動植物の確認状況

区分		希少野生動物の確認種数		区分		希少野生植物の確認種数		
		市内	県内			市内	県内	
脊椎動物	哺乳類	2	18	維管束植物	シダ植物	5	98	
	鳥類	69	158		種子植物	裸子植物	0	2
	爬虫類	0	9			被子植物	100	709
	両生類	4	18	蘚苔類	苔類	1	50	
	魚類	11	56		蘚類	0	92	
無脊椎動物	昆虫類	56	281	藻類	淡水藻類	4	33	
	クモ類	1	41		海藻類	0	14	
	貝類	7	153	菌類	2	44		
	その他	2	65	合計	112	1,042		
合計		152	799					

出典：兵庫県版レッドリスト

②外来生物

市内では、アライグマやヌートリア、オオキンケイギクなど、特定外来生物の生息・生育が確認されています。



アライグマ

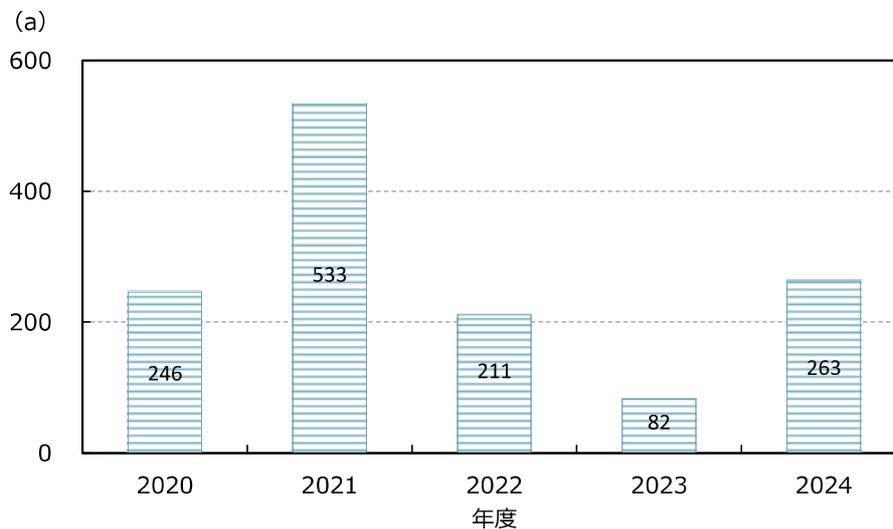


オオキンケイギク

出典：環境省ホームページ

③有害鳥獣

市内の有害鳥獣（イノシシ・シカ）による農業被害面積は、2024（令和6）年度で263aとなっており、増減はあるものの概ね横ばいで推移しています。



出典：三木市資料

有害鳥獣（イノシシ・シカ）による農業被害面積の推移

(2) 課題

- 市内で生息・生育が確認されている特定外来生物の特徴や駆除方法について情報発信を行うことで、生態系被害の拡大防止に努めていく必要があります。また、兵庫県や周辺自治体と連携して、新たな特定外来生物の侵入防止に努めていく必要があります。
- 市内では有害鳥獣による農業被害が発生していることから、捕獲活動や防護柵の設置など、被害の拡大防止に努めていく必要があります。
- 総農家数及び経営耕地面積は、ともに減少傾向で推移しているため、農業の担い手の確保・育成や、耕作放棄地の発生防止・解消に努めていく必要があります。
- 森林環境譲与税等を活用した森林整備や木材利用に努めることで、水源かん養機能、生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能等の森林が有する多面的機能の維持・発揮を図っていく必要があります。

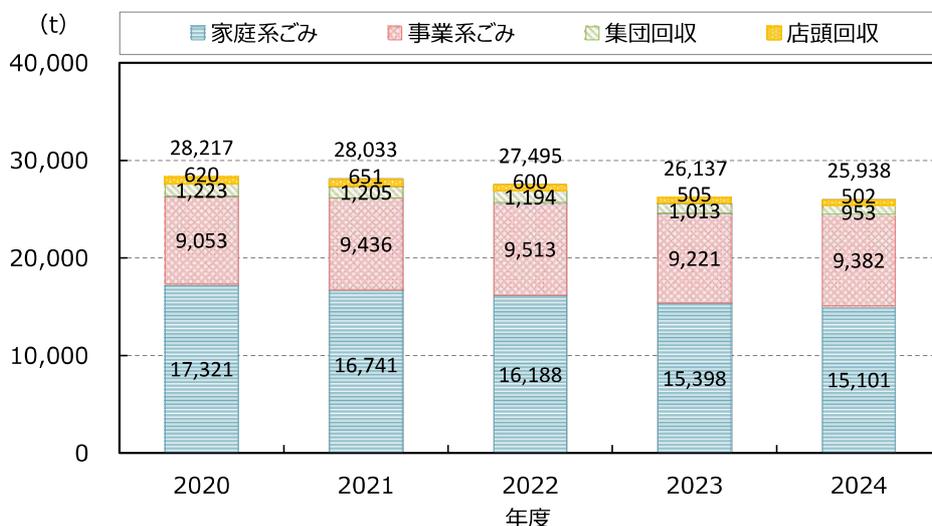
1.3 資源循環

(1) 現状

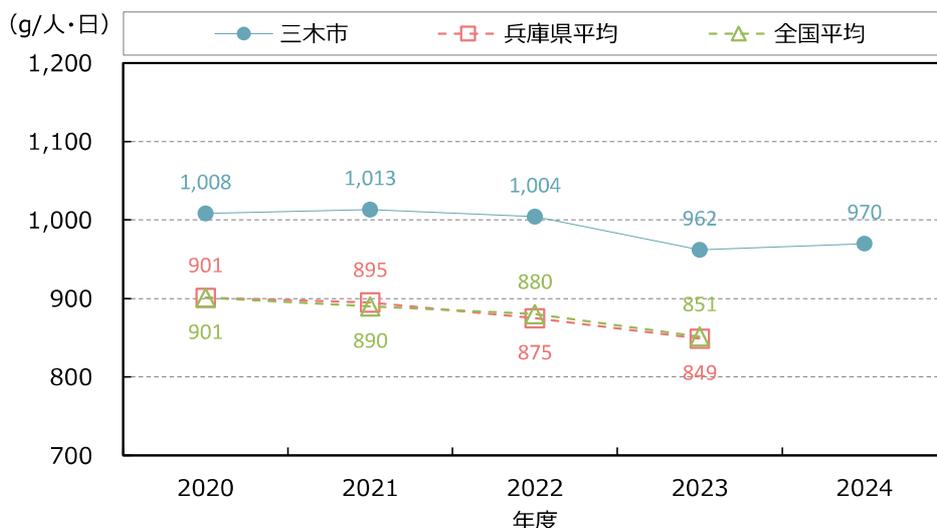
①ごみ排出量

本市のごみ排出量は、2024（令和6）年度で25,938tとなっています。減少傾向で推移しており、2020（令和2）年度と比較すると8.1%減となっています。種類別に見ると、家庭系ごみが12.8%減、集団回収が22.1%減、店頭回収が19.0%減となっている一方で、事業系ごみが3.6%増となっています。

また、本市の1人1日当たりのごみ排出量は、2024（令和6）年度で970g/人・日となっています。多少の増減はあるものの減少傾向で推移していますが、兵庫県平均及び全国平均よりも多い水準となっています。



出典：三木市一般廃棄物処理基本計画に基づく基礎データ（環境政策課）
ごみ排出量の推移

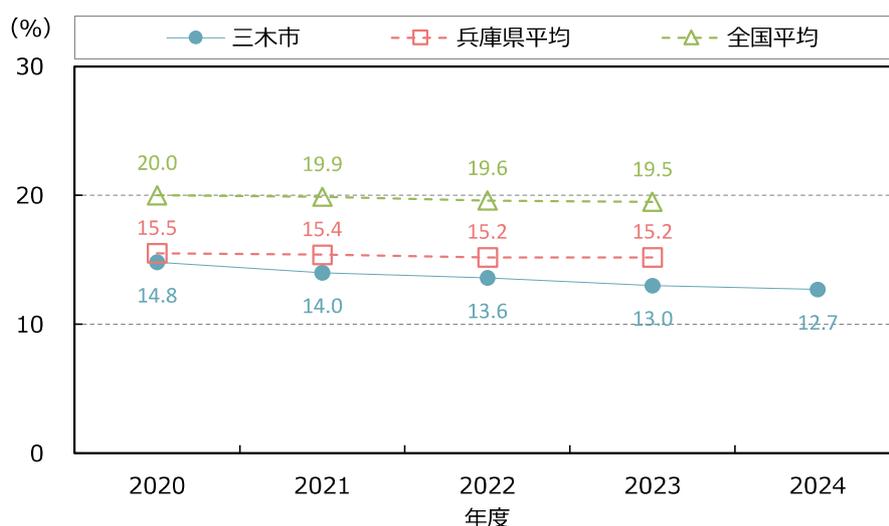


出典：三木市一般廃棄物処理基本計画に基づく基礎データ（環境政策課）、
一般廃棄物処理実態調査
1人1日当たりのごみ排出量の推移

②リサイクル率

本市のリサイクル率※は、2024（令和6）年度で12.7%となっています。多少の増減はあるものの減少傾向で推移しており、兵庫県平均及び全国平均よりも低い水準となっています。

※ごみ排出量に占める資源化されたごみの量の割合を示します。



出典：三木市一般廃棄物処理基本計画に基づく基礎データ（環境政策課）、
一般廃棄物処理実態調査

リサイクル率の推移

(2) 課題

- 1人1日当たりのごみ排出量は多少の増減はあるものの減少傾向で推移していますが、兵庫県平均及び全国平均よりも多い水準となっていることから、ごみの発生抑制や再使用のさらなる促進を図っていく必要があります。
- 生ごみの水切りの徹底や、食材の使いきり・食べ切りによる食品ロスの削減に向けた普及啓発等によって、さらなるごみ減量につなげていく必要があります。
- リサイクル率は多少の増減はあるものの減少傾向で推移し、兵庫県平均及び全国平均よりも低い水準となっていることから、ごみの分別方法等の浸透・定着を図ることによって、可燃ごみに含まれている資源化可能物のさらなる分別の徹底を促していく必要があります。
- プラスチックを取り巻く環境問題に対応していくため、プラスチックごみの削減や使い捨てプラスチック製品を使用しないライフスタイルへの転換を図っていく必要があります。
- ごみの不法投棄やポイ捨てをしにくい環境づくりを推進するとともに、ごみの不法投棄やポイ捨ての禁止に関する意識啓発に努めていく必要があります。

1.4 健全・快適

(1) 現状

①大気質

市内には一般環境大気測定局が設置されていませんが、周辺の三田市及び稲美町では、兵庫県による二酸化窒素、浮遊粒子状物質、微小粒子状物質及び光化学オキシダント等の常時監視が行われています。全国的に環境基準達成率が極めて低い光化学オキシダント以外については、全て環境基準を達成しています。

二酸化窒素の測定結果

単位：ppm

測定局		測定結果					環境基準値
		2019	2020	2021	2022	2023	
三田市	市役所	0.019	0.021	0.021	0.018	0.014	0.06 以下
稲美町	町役場	0.020	0.021	0.018	0.019	0.018	

注) 測定結果は、日平均値の年間 98%値を示します。

出典：兵庫県環境白書

浮遊粒子状物質の測定結果

単位：mg/m³

測定局		測定結果					環境基準値
		2019	2020	2021	2022	2023	
三田市	市役所	0.039	0.037	0.026	0.028	0.033	0.1 以下
稲美町	町役場	0.061	0.049	0.035	0.035	0.043	

注) 測定結果は、日平均値の年間 2%除外値を示します。

出典：兵庫県環境白書

微小粒子状物質の測定結果 (その1)

単位：μg/m³

測定局		測定結果					環境基準値
		2019	2020	2021	2022	2023	
三田市	市役所	6.7	7.2	6.2	6.7	5.3	15 以下
稲美町	町役場	11.7	10.8	9.6	10.5	10.0	

注) 測定結果は、年平均値を示します。

出典：兵庫県環境白書

微小粒子状物質の測定結果 (その2)

単位：μg/m³

測定局		測定結果					環境基準値
		2019	2020	2021	2022	2023	
三田市	市役所	18.5	23.4	15.7	16.6	15.0	35 以下
稲美町	町役場	27.4	30.9	24.1	24.1	25.8	

注) 測定結果は、日平均値の年間 98%値を示します。

出典：兵庫県環境白書

光化学オキシダントの測定結果

単位：ppm

測定局		測定結果					環境基準値
		2019	2020	2021	2022	2023	
三田市	市役所	0.119	0.103	0.114	0.107	0.113	0.06 以下
稲美町	町役場	0.129	0.092	0.094	0.095	0.132	

注 1) 測定結果は、昼間の 1 時間値の最高値を示します。

表 2) 表中の黄色着色箇所は、環境基準値を上回っていることを示します。

出典：兵庫県環境白書

②水質

市内の河川 15 地点において、生物化学的酸素要求量（BOD）等の測定を毎年度行っています。市内の河川については環境基準が設定されていませんが、流入先の加古川本流で設定されている環境基準値と参考比較すると、概ね下回る結果となっています。

生物化学的酸素要求量（BOD）の測定結果

単位：mg/L

河川	測定地点	測定結果					参考基準値 (環境基準値)
		2019	2020	2021	2022	2023	
美囊川	別所橋	1.1	1.8	2.1	1.5	2.1	3 (B 類型)
	末広橋	1.1	1.8	2.9	1.5	2.2	
	上津橋	1.0	1.5	2.0	1.7	1.6	
	久留美	1.0	1.5	2.7	1.9	2.4	
	東栄橋	1.2	2.0	2.2	3.8	2.8	
	里脇橋	0.9	1.5	2.8	1.5	2.0	
	八幡橋	0.8	1.5	3.2	1.2	2.2	
北谷川	小中橋	1.0	1.3	2.6	1.0	2.1	
吉川川	昭和橋	1.0	1.6	2.0	0.9	1.6	
志染川	岩宮	0.9	1.3	1.4	1.1	2.0	
	御坂	0.8	1.1	2.0	0.8	1.9	
	呑吐ダム下流	0.7	1.0	1.6	0.8	1.5	
細目川	細目橋	0.7	1.2	1.5	1.2	1.4	
小川川	小川橋	0.7	1.3	1.8	1.2	2.2	
淡河川	丹生橋	0.9	1.1	1.7	0.9	1.4	

注 1) 測定結果は、年間 75%値を示します。

表 2) 表中の黄色着色箇所は、参考基準値（環境基準値）を上回っていることを示します。

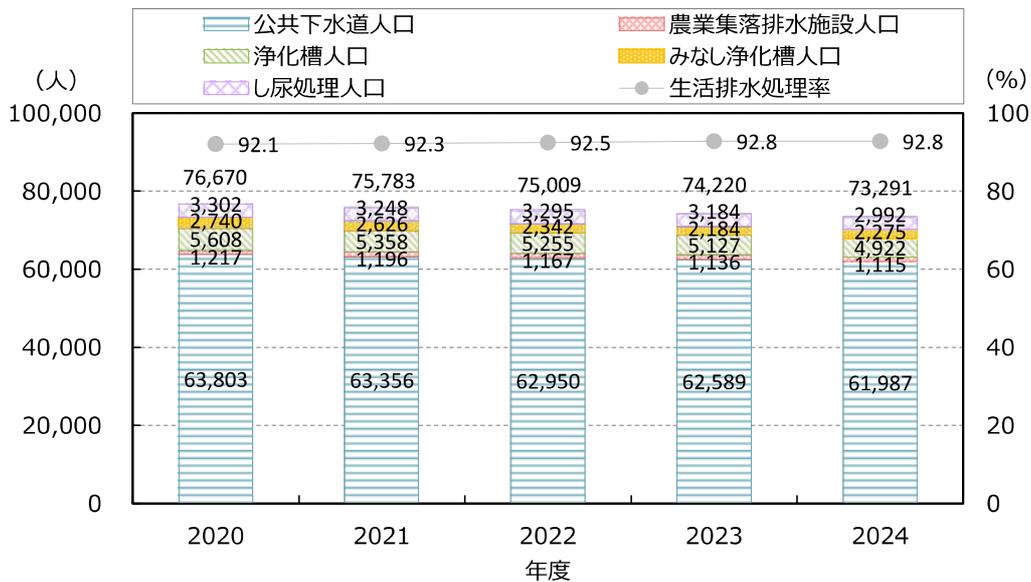
出典：三木市統計書

③生活排水処理

本市の生活排水処理率※は、2024（令和6）年度で92.8%となっており、増加傾向で推移しています。

また、同年度の処理形態別人口を見ると、公共下水道人口が61,987人で最も多く、次いで浄化槽（合併処理浄化槽）人口が4,922人、し尿処理人口が2,992人、みなし浄化槽（単独処理浄化槽）人口が2,275人などとなっています。

※総人口に占める生活排水を適正に処理している人口（公共下水道人口、農業集落排水施設人口、浄化槽人口の合算値）の割合を示します。



出典：三木市資料

処理形態別人口及び生活排水処理率の推移

④騒音

市内の主要道路において、自動車騒音の測定を行っています。一般国道175号、加古川三田線、三木三田線及び三木環状線において環境基準を上回る結果となっています。

自動車騒音の測定結果（その1）

単位：dB

測定年度	測定地点	時間区分	測定結果	環境基準値	
2019	加古川三田線	本町1丁目6	昼間	67	昼間：70 夜間：65
			夜間	64	
		久留美	昼間	68	
			夜間	61	
		口吉川町裾原	昼間	72	
			夜間	65	

注）表中の黄色着色箇所は、環境基準値を上回っていることを示します。

出典：兵庫県環境白書

自動車騒音の測定結果（その2）

単位：dB

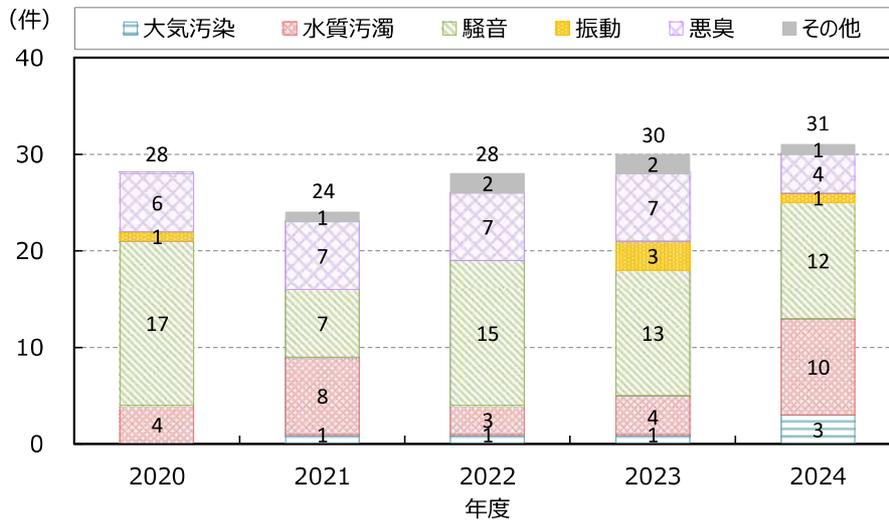
測定年度	測定地点		時間区分	測定結果	環境基準値
2019	加古川三田線	本町2丁目2	昼間	67	昼間：70 夜間：65
			夜間	64	
		福井3丁目14	昼間	69	
			夜間	66	
	三木宍粟線	末広3丁目10	昼間	68	
			夜間	61	
2020	三木三田線	志染町志染中	昼間	69	
			夜間	65	
		志染町細目	昼間	68	
			夜間	64	
		志染町戸田	昼間	71	
			夜間	68	
	平野三木線	志染町窟屋	昼間	67	
			夜間	61	
	神戸加東線	志染町三津田	昼間	70	
			夜間	64	
志染町御坂		昼間	66		
		夜間	62		
2021	上荒川三田線	吉川町上荒川	昼間	60	
			夜間	50	
	正法寺三木停車場線	大村	昼間	67	
			夜間	58	
	三木環状線	平井	昼間	64	
			夜間	54	
別所町興治		昼間	72		
		夜間	66		
2023	一般国道175号	別所町高木	昼間	74	
			夜間	69	
	一般国道428号	吉川町米田	昼間	68	
			夜間	58	
	西脇三田線	吉川町金会	昼間	69	
			夜間	64	
	神戸三木線	福井	昼間	69	
			夜間	63	
加古川小野線	別所町正法寺	昼間	68		
		夜間	65		

注) 表中の黄色着色箇所は、環境基準値を上回っていることを示します。

出典：兵庫県環境白書

⑤公害苦情件数

本市の公害苦情件数は、2024（令和6）年度で31件となっており、多少の増減はあるものの増加傾向で推移しています。その内訳を見ると、騒音が12件で最も多く、次いで水質汚濁が10件などとなっています。



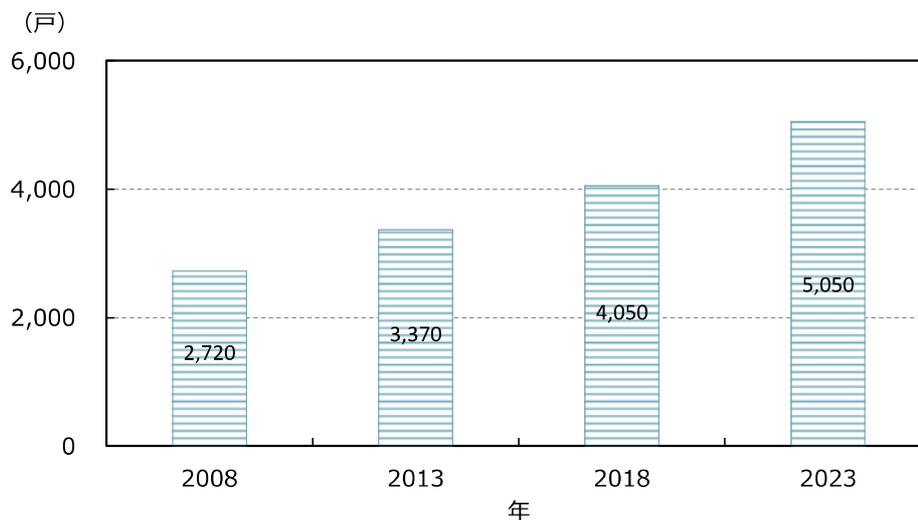
出典：三木市統計書

公害苦情件数の推移

⑥空き家

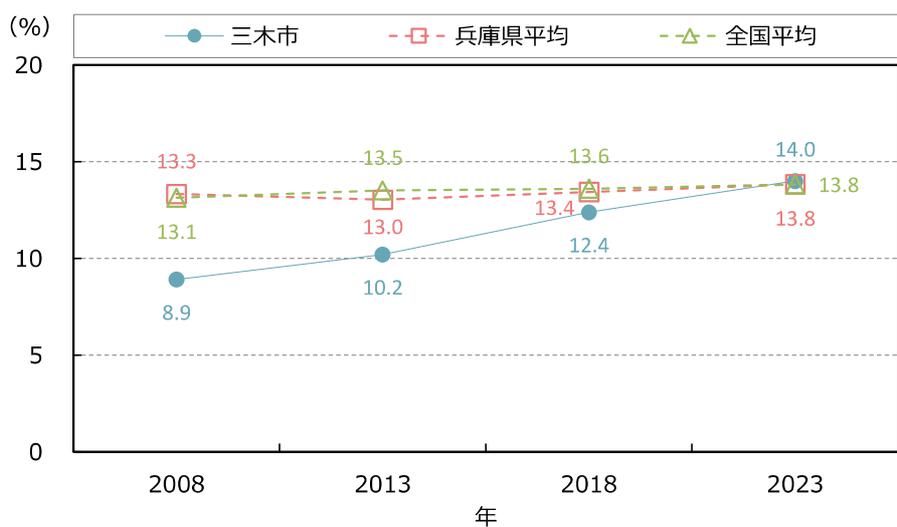
本市の空き家数は、2023（令和5）年で5,050戸となっており、増加傾向で推移しています。

また、空き家率は、2023（令和5）年で14.0%となっています。増加傾向で推移しており、2023（令和5）年には兵庫県平均及び全国平均よりも高い水準となっています。



出典：住宅土地統計調査

空き家数の推移



出典：住宅土地統計調査

空き家率の推移

⑦文化財

市内には、国指定・登録文化財が 14 件、県指定・登録文化財が 14 件、市指定文化財が 23 件存在します。

国指定・登録文化財（2025 年 6 月時点）

No	種別	管理者	名称
1	彫刻 建造物	伽耶院	木造毘沙門天立像
2			伽耶院（本堂・多宝塔・三坂明神社本殿）
3		東光寺	東光寺本堂
4		天津神社	天津神社本殿
5		歓喜院	歓喜院聖天堂
6		稲荷神社	稲荷神社本殿
7		史跡	三木市等
8	建造物 名勝 有形民俗	三木市	旧玉置家住宅
9			小河家住宅
10			小河氏庭園
11			播州三木の鍛冶用具と製品
12	建造物	個人	三寿ノ刃物製作所
13			旅亭文市楼
14			黒田清右衛門商店

出典：三木市統計書

県指定・登録文化財（2025年6月時点）

No	種別	管理者	名称
1	工芸品	慈眼寺	銅鐘
2		蓮花寺	銅鐘
3	考古資料	高男寺自治会	銅製経筒
4	建造物	密教院	密教院鎮守社
5		東光寺	東光寺多宝塔
6	彫刻	法光寺	法光寺五輪塔
7			鬼面
8			法光寺文書3巻（37通）
9			法光寺境内出土五輪泥塔
10	無形民俗	若宮神社宮座中	吉川若宮神社のヤホー神事
11	建造物	伽耶院	伽耶院開山堂
12	工芸品	本長寺	桐唐草格子文様片身替小袖
13	名勝	三木市	旧小河氏庭園
14	登録文化財	無形民俗	三木金物神社奉賛会 鞆まつり（三木金物神社奉賛会）

出典：三木市統計書

市指定文化財（2025年6月時点）

No	種別	管理者	名称
1	考古資料	三木市教育委員会	高篠出土小銅鐸
2	建造物	伽耶院	伽耶院行者堂
3	考古資料	三木市教育委員会	正法寺山出土瓦塔片一括資料
4	絵画	金剛寺	競馬・遊楽図屏風（八曲一双）
5	無形民俗	蓮花寺鬼踊り保存会	蓮花寺鬼踊り
6	史跡	三木市	愛宕山古墳（下石野5号墳）
7	無形民俗	法界寺	三木合戦軍図絵解き
8	歴史資料	新宮神社	新宮神社石槌
9	工芸品	法光寺	法光寺銅鐘
10		東光寺	東光寺銅鐘
11	歴史資料	三木市	秀吉制札
12	無形民俗	大宮八幡宮秋祭り大当番	大宮八幡宮例大祭宮入宮出の屋台練り
13	建造物	伽耶院	二天門（中門）
14	工芸品	雲龍寺	鉄鐙
15	建造物	法界寺	東播八郡總兵別所府君墓表
16	彫刻	伽耶院	木造不動明王立像
17			木造不動明王立像
18			木造三宝荒神立像
19	考古資料	三木市教育委員会	与呂木古墳出土石枕
20	考古資料	三木市	鍛冶屋 阿弥陀三尊種子板碑（自然石）
21		個人	有安 阿弥陀三尊種子板碑（自然石）
22	筒井俊雄氏所蔵染形紙		
23	天然記念物	兵庫県	兵庫県立三木山森林公園のコバノミツバ ツツジ群落

出典：三木市統計書

(2) 課題

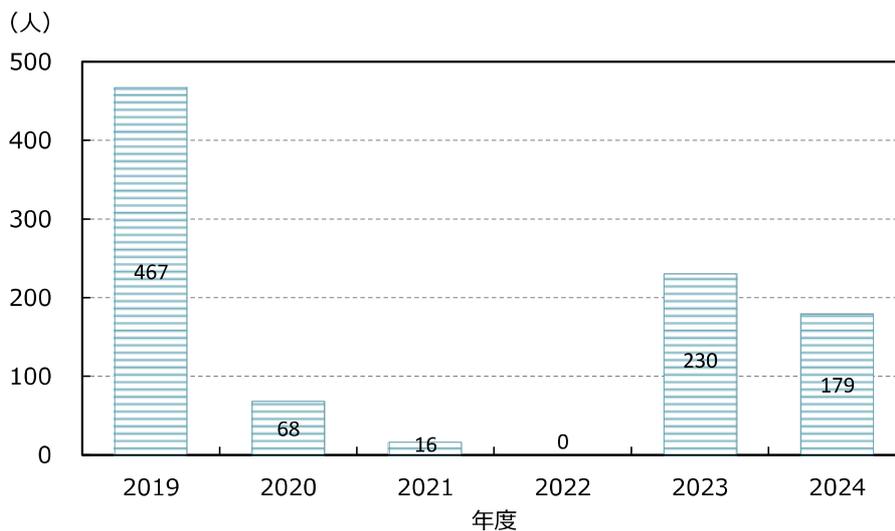
- 河川水質は環境基準を概ね下回る良好な状態が維持されていますが、モニタリング調査を継続するとともに、生活排水処理対策等を推進していく必要があります。
- 自動車騒音が環境基準を上回る道路が見られることから、モニタリング調査を継続するとともに、地域の実情に応じて必要な対策を国・兵庫県・警察と検討していく必要があります。
- 空き家率は増加傾向で推移するとともに、兵庫県平均及び全国平均よりも高い水準となっていることから、空き家の発生抑制や適正管理を促進するとともに、利活用の拡大を図っていく必要があります。
- 市内には多くの重要な文化財等が存在することから、適正な保全・管理及びその活用を推進するとともに、市内外にその価値や魅力について情報発信を行っていく必要があります

1.5 地域力

(1) 現状

①環境教育・環境学習

本市では、三木市清掃センターの施設見学会など、地域や学校等で環境学習会を開催しています。同施設の施設見学者数は、2024（令和6）年で179人となっています。新型コロナウイルスの影響もあり、2020（令和2）年度から2022（令和4）年度にかけて大きく減少した後、緩やかな回復傾向で推移しています。

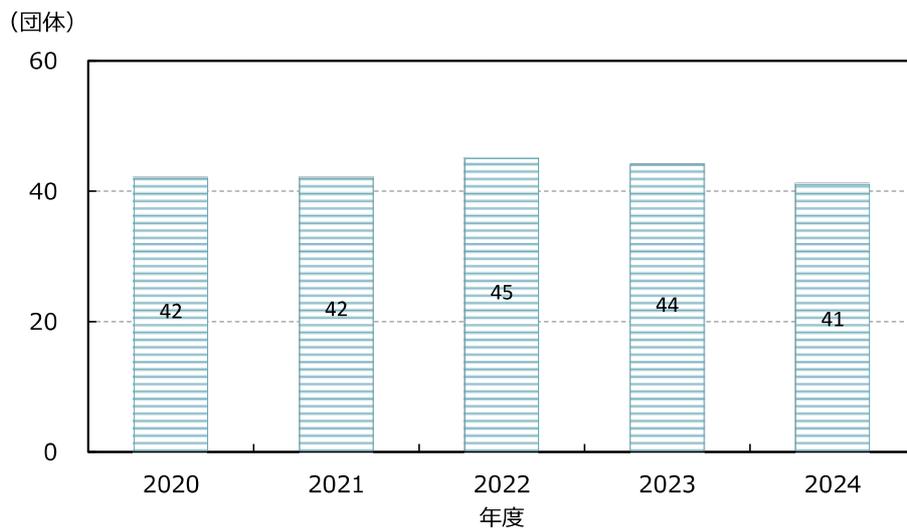


出典：三木市資料

三木市清掃センターの施設見学者数の推移

②環境保全活動

本市では、市内の道路や公園等の清掃や美化活動を行うグループや団体に対して、「三木市クリーン・ボランティア団体」への登録を募集し、必要な清掃用具や消耗品を支給することで活動を支援しています。同団体の登録数（延べ数）は、2024（令和6）年度で41団体となっており、概ね横ばいで推移しています。



出典：三木市資料

「三木市クリーン・ボランティア団体」の登録数（延べ数）の推移

（2）課題

- 次世代を担う子どもたちをはじめとする幅広い世代を対象とした環境学習の機会や環境情報の充実を図っていく必要があります。
- 環境保全に役立つ情報や環境学習の機会・環境イベントの開催情報など、環境情報を広く周知するため、広報みき・ホームページ・X・YouTubeなど、各種の情報発信媒体を活用して、幅広い世代により分かりやすく情報発信を行っていく必要があります。
- 市内の環境教育や環境保全活動の活性化を図るため、推進を担う人材の発掘・育成や活躍の場の提供を行っていく必要があります。